

安来節

やすぎぶし

＃全国に名をとどろかせている民謡＃



民衆の間で

生まれ育った

安来節



安来節が全国的に知られるようになったのは、大正年間から昭和の初めにかけて、渡部お糸が、富田徳之助とコンビを組み、安来節の全国巡業を行ったことから、お糸一座は行く先々で好評を得て人気上昇し、安来節の黄金時代を築いた。

安来節の起源は徳川中期の頃と伝えられ、泰平に慣れた民衆の間に歌舞音曲が流行し、この頃に七七五調の歌詞で安来節の原型らしいものが歌われていたといわれ、その後、時代の流れと共に安来節の独特な形が完成されて来たのであるが、なんといっても、十神山の浮かぶ波静かな中海のほとり、風光明媚な環境、そして素朴な人間味あふれる、安来地方の風情の中から生まれるべくして生まれたものと思われる。

天保年間には船による交流が盛んで、全国の船が天然の良港である安来港に頻繁に入港し、安来港からは米や鉄を積んだ船が出港し港町として隆盛を極めた。諸国の船頭達の間では、民謡の交流も盛んで「佐渡おけき」「追分節」等が巷で歌われていた。この頃に「おさん」という美声の芸妓が自分の独創による「さんこ節」を歌い、親しまれた。これが安来節によく似た節回しであったと伝えられている。

安来では天保嘉永の頃、安来町に住む大塚順仙という鍼医が音曲をよくし、それが安来節の原形的なものであったように古老の話にあり、当時未完成であった安来節も、浄瑠璃歌舞伎芝居の全盛時の中にあつて、他国の民謡の影響を受けな

がら成長してきたものと思われる。明治の初期に完成の域にあつた安来節は出雲地方で大流行しており、八月の月の輪まつりでは幾百組の男女が共に編笠、頬かむりで、面白い身ぶりで夜を徹して金町内を練り歩くさまは、まさに民謡王国にふさわしい賑やかさであったといわれている。明治四十四年には正調安来節保存会が創立され、会長に福島豊市が就任、安来節の全盛時代を不動のものとした。

この頃に渡部佐兵衛の子「お糸」が頭角を現し三味線の富田徳之助と組んで黄金時代を築いた。安来節の名人といえば「お糸さん」にジャベ徳さん（徳之助）」と騒がれ人気は益々上昇し、全国巡業により安来節の名を高めた。お糸は昭和二十九年三月二十七日、七十九歳で他界するまで後進の指導にあたった。

現在、安来節保存会は会長の安来市長をはじめ全国に六十一支部、約三千名の会員が安来節の保存・宣伝・普及に努めており、単独の民謡団体としては日本有数の組織である。一月の唄い初め会、春のお糸まつり、資格審査会、予選会、全国優勝大会（八月十五日・十七日）等を開催している。また、平成二十三年には、創立100周年を迎え、平成二十六年には、「安来市無形民俗文化財」にも指定され、国内のみならず海外でも公演を行う等、その活躍は益々活発になってきている。



安来節記念碑（安来公園・昭和7年建立）

安来節歌詞

素唄

安来千軒 名の出た所 社日楼に十神山
 出雲旅路で 安来のまちは 忘れられない唄どころ
 何はなくとも 出雲へござりや 心尽しの安来節
 出雲大社で 結んだ帯を 心安来の宵に解く
 恋と鋼はよう似たものよ 焼きよ次第で味が出る
 心安来に 思いは隠岐に 波を枕に船の旅
 熱い情に ハガネも溶ける 溶けて社日の花と咲く
 出雲名物 荷物にならぬ 聞いてお帰れ安来節
 恋にこがれて 鳴く蟬よりも 啼かぬ螢が身をこがす
 お国訛りを ついさとられて 唄いましたよ安来節
 旅は道連れ この世は情 助け合うてぞ世は丸い
 お国ばかりか 外つ国までも 唄いひびかす安来節
 金はなけれど 日毎に唄で 心楽しく暮らしたい
 咲いた時より その散り際を 人に見せたい桜花
 三味の音色は 千両のあたひ 唄は万両の安来節
 恵比寿大国 出雲の国の 西と東の守り神
 さても珍らし 月の輪まつり 夜の安来は人の波

字余り

あこがれの唄に名高い本場はここか 聞いて行こうよ安来節
 風山桜咲かねば ありや只の山 貴方も実なきや只の人
 桜に惚れても 梅には惚れな 梅にはホーホケキョーの主がある
 夜ざくらにうかれゝて 社日に行けば 唄もなつかし安来節
 迷うたか迷わされたか 私にそれが わかるようなら迷やせぬ
 七転八起世間に なにくよくよと 牡丹も菰着て冬ごもる
 葉桜になると覚悟は きわめておれど 咲いた昔がしのばれる
 あの声でとかげくうかや 山時鳥 人は見かけによらぬもの
 安来十神山 鉄ならよかる 可愛船頭さんに只積ましよ
 寺々の鐘を下して 鶏伏せて ならさず啼かさず主と朝寝がしてみたい
 安来節聞こし召さんと 八百万の神の 十神お山に集り給うは 他国の神無月
 泣かずんば啼くまでまとうよ 山時鳥 人は辛抱が第一よ
 軒端の雨垂石を堀る 待てば成功の時も来る

竹になりたや 紫竹淡竹の蛇の目の唐傘 したろくろの竹に

可愛いトーさんと パラリとひろげて相傘さしてな 小宿通いの程のよさ

安来千軒名の出たところ 社日楼に十神山

十神山から沖見れば いずくの船かは知らねども

滑車のもとまで帆を巻いて ヤサホくと鉄積んで上のぼる





男踊り

どじょうすくい

安来節の調子に合わせて、

小川でどじょうをすくうときの動作を表現したものである。

特に固定した形はなく野趣をそのまま面白く踊り、

我流を織りまぜてローカル性豊かに踊ることが好まれる。

動作に合わせて特にユーモラスな顔を作ること

大切なことである。

「どじょうすくい」は
とても有名なんだよ！
踊ればゆかい
みんな笑い出す!!

豆しぼり

上着
(カスリ)

腰ひも

ビク

鼻あて
(一文銭)

ザル

ズボン

どじょう
すくいの
起源



昔、安来近郷の若者たちが、
どじょうを小川からすくって
きては酒盛りをした。そして、
酔うと必ず、どじょうをすく
う時の動作をまねて踊り、み
んなで楽しんだという。

また、「わしが生まれは 浜
佐陀生まれ 朝まとうからど
じょうすくい」という唄があ
るように、浜佐陀に住む竹内
由助という人が、その動作を
面白おかしく踊って見せて人
気を得たという話も伝わっ
ている。

この踊りが安来節のリズム
とよく合って、安来節に合わ
せてどじょうすくいを踊るこ
とがだんだん広まっていった。
どじょうすくい踊りの起源
については諸説あるが、一説
では砂鉄をすくう動作ともい
われている。

〈歌詞〉

● おやじどこへ行く 腰に籠下げて
前の小川へどじょう取りに

● わしが生まれは 浜佐陀生まれ
朝まとうからどじょうすくい

● 唄に千両の 値ぶみがあれば
どじょうは万両の味がある

踊り紹介



女踊り

どじょうすくい



安来節の女踊りは安来節の調子に合わせて、どじょうすくいの所作を舞踊的にリズムカルに軽快に踊る。女踊りは二人一組で踊り、唄の終わったところで立ち姿を男どし、座った姿を女とする。



〈歌詞〉

- 高い山から 谷底みれば
乙女姿のどじょうすくい
- 出雲八重垣 鏡の池に
写す二人の晴れ姿



銭太鼓



銭太鼓は日本民族楽器の一種で、銭の触れ合う音を利用し、リズム楽器として踊りの伴奏に使用したものである。竹筒に穴のあいた銭を十文字に取付けたもので、安来節の余技としてその独特の野趣に満ちた手振り調子は、安来節と切っても切り離せないものとなっている。



〈歌詞〉

- 何はなくとも 出雲のみやげ
ごらん下さい銭太鼓
- 可愛けりやこそ 毎晩通う 憎うてこの町に
蛇の目の唐傘 骨の数ほど通わりよか
- 竹にすずめはコリヤ あちらの藪から
こちらの藪へと チュンチュンバタバタ
羽交えをそろへて品よくとまる
とめてとまらぬコリヤ
三千世界に唄と踊りと銭太鼓

安来節の歴史

日本の出来事

年

安来節の歴史

「奥の細道」が完成する。

元禄七年

1694

●七七五調の安来節の原型らしきうたが歌われはじめた。北前船でにぎわった安来港では、民謡の交流も盛んであった。

天保の大飢饉がはじまる。

天保四年

1833

●この頃、安来節の節回しによく似た「さんこ節」を、「おさん」という芸妓が独創で唄った。

アメリカ使節ペリーが浦賀に
来航する。

嘉永六年

1853

●安来に住む大塚順仙という鍼医が「さんこ節」などを改良し、それが安来節の原型となる。以降、浄瑠璃歌舞伎芝居全盛期の中で、いろいろな民謡の影響を受けながら安来節として成長していく。

電話機が発明される。

明治九年

1876

●初代渡部お糸出生。

ポーツマス講和条約が
結ばれる。

明治三八年

1905

●「お糸」が注目されはじめ、三味線の富田徳之助と組んで人気を博し、安来節の名を高めた。

普通選挙法が衆議院で
可決される。

明治四四年

1911

●「正調安来節保存会」創立。会長に福島豊市氏が就任。

日本初の民間飛行場が
開設される。

大正五年

1916

●神戸聚楽館主催の全国俚謡名人大会にお糸の安来節が主席入賞。これを機会にお糸の安来節がレコード化されて他府県に紹介伝され、安来節が全国的に流行・普及した。

第一次世界大戦の終結に関する
パリ講和会議開催される。

大正八年

1919

●大阪の吉本興業が寄席の不況打開策として安来節に目をつけ米子、安来でスカウトし道頓堀で開幕し大成功をおさめた。これがもとで東京（木馬館）と大阪で安来節の専門館が誕生した。
●お糸の巡業一座は全国各地はもとより、朝鮮・台湾・満州まで遠征活躍し、安来節の黄金時代を築いた。

トヨタ自動車工業が設立される。

昭和十二年

1937

●家元二代目渡部お糸襲名（川島ナミ）

NHKのど自慢全国コンクール
優勝大会が開催される。

昭和二十三年

1948

●初代渡部お糸、島根県知事より安来節の振興並びに観光宣伝の功労者として、第二回文化功労賞を受賞。

東京証券取引所が設立される。

昭和二十四年

1949

●戦後初の「安来節全国優勝大会」が開催される。

ビキニ島での水爆実験により
第五福竜丸が被爆する。

昭和二十九年

1954

●初代渡部お糸が七十九歳で他界。
●安来市発足。

日本が国際連合に加盟する。

昭和三十一年

1956

●家元三代目渡部お糸襲名（雲津ハル子）
●家元二代目渡部お糸没（六十二歳）

昭和天皇が亡くなる。
平成と改元する。
消費税が実施される。

平成元年

1989

●初代渡部お糸の功績を称え、安来市第一号の名誉市民の称号が贈られる。

雲仙普賢岳で大火砕流が発生する。

平成三年

1991

●家元四代目渡部お糸襲名（薮内和子）

サッカー「Jリーグ」が開幕する。

平成五年

1993

●家元三代目渡部お糸没（八十五歳）
●アメリカ・ニューヨークで安来節公演。

新紙幣二千円札が発行される。

平成十二年

2000

●福岡「博多座」で安来節公演。

愛知県で「愛・地球博」が開催される。

平成十七年

2005

●京都「南座」で安来節公演。

第1回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）が開催される。

平成十八年

2006

●安来節の殿堂「安来節演芸館」が開館する。
●フランス・パリで安来節公演。

安倍晋三首相が辞任。
福田康夫内閣が発足。

平成十九年

2007

●ドイツで安来節公演。
●ハワイで安来節公演。

東日本大震災がおこる。

平成二十三年

2011

●安来節保存会創立100周年記念式典並びに記念イベント開催。

東京スカイツリーが開業する。

平成二十四年

2012

●家元四代目渡部お糸が文化庁より「地域文化功労者表彰」を受賞。
●東京・浅草「木馬亭」で安来節公演。

2020年夏季五輪の東京招致に成功する。

平成二十五年

2013

●出雲大社「平成の大遷宮」奉祝奉納公演。

消費税が5%から8%に増税される。

平成二十六年

2014

●「安来節」が安来市無形民俗文化財に指定される。

安全保障関連法案が可決される。

平成二十七年

2015

●鳥取県境港市に寄港するクルーズ船へのおもてなしとして多数安来節公演。（～現在）

主要国首脳会談が三重県で開催される。

平成二十八年

2016

●安来市・雲南市・奥出雲町と共同で「出雲の国たたら風土記」鉄づくり千年が生んだ物語」が文化庁より日本遺産として認定。地域の風土に根ざすストーリーの一つとして、「民謡安来節」が構成文化財として位置づけられた。

陸上の100m走で桐生祥秀が日本人初の9秒台を記録する。

平成二十九年

2017

●東京・浅草「浅草寺」で安来節奉納公演。
●地域伝統芸能活用センターより地域商工業の振興に顕著な貢献が認められ、「地域伝統芸能大賞・地域振興賞」を受賞。

西日本豪雨が発生する。

平成三十年

2018

●NHK朝の連続テレビ小説「わろてんか」に安来節乙女組が登場。これを記念して安来節演芸館にて安来節乙女組トークショーが開催される。

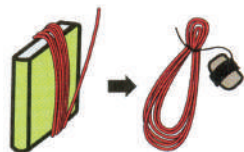


03

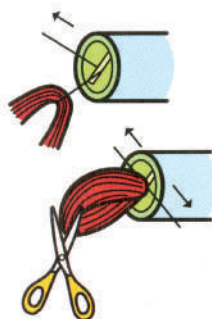
ふさをつける作業

III

1. ふさの作り方：厚紙に毛糸を25回巻き、厚紙からはずしてたこ糸で結びます。
(赤と白 各2ふさ)



2. パイプのボンドが乾いたら、ふさをつけます。
3. 赤い布のパイプには白いふさを、紫の布のほうには赤いふさをつけます。
4. (A) のばん線にたこ糸を利用して毛糸を半分のところまで通し、合わせてたこ糸で結びます。たこ糸は3回ほど巻いてしっかりと結びます。
5. 毛糸の輪になっている部分をはさみで切ってそろえます(ふさの長さ：11cmくらいが適当)。



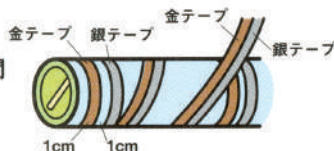
04

金・銀のテープを巻く作業

III

【基本の巻き方】

両端の金と銀のテープの間隔は1cm程度にする。



Let's Try!



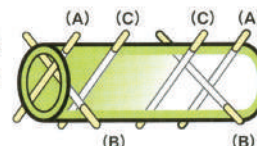
01

パイプにばん線

5円玉を入れる作業

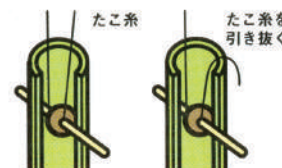
III

1. パイプには、ばん線を差し込むための穴(A)(B)(C)を両端にあけます。



2. パイプの穴(C)に5円玉を2個通して、ばん線を差し込みます。

※5円玉はたこ糸を使って通します。



3. 同じ要領で(B)の穴にもばん線をさし5円玉を入れます。

4. (A)の穴には、ばん線を差し込むだけです(後でふさをつけるため)。

5. ばん線が抜けないように(A)(B)(C)の周囲をビニールテープでしっかりと巻きます。



02

パイプに布をはる作業

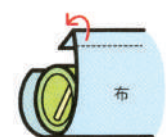
III

1. パイプにボンドを薄く塗り、布をはります。

2. 布をはり、終わりの部分は1~2cm中に折り曲げ、重ねてボンドをつけてはります。

3. パイプの両端のはみ出た布は切れ目を入れてボンドを塗り、内側に折り込みます。

※ボンドがよく乾くまで待つこと。



材 料

- 塩ビパイプ2本
(長さ33cm・太さ3.8cm)
- 布(赤と紫 各1枚)
- 毛糸(赤と白 各1/3玉)
- テープ(金・銀)
- 5円玉 16個
- たこ糸 4本
- ※毛糸の房を結ぶため
- ばん線 12本
- ビニールテープ
- ボンド

用意すると便利な道具

- 穴をあけるためのドリル
- はみ出したばん線を切るペンチ
- はさみ
- かなづち
- かぎ針
- ボンドを塗るための皿と刷毛

みんなで
銭太鼓を
ZENIDAIKO
作ってみよう!

安来節グッズで なりきり どじょうすくいに挑戦!

安来節 グッズ



CD

男踊り・銭太鼓唄収録

1,000円



どじょうすくい編DVD

初心者向け

3,990円



銭太鼓

銭太鼓
に使用

2,800円



ビク

男踊り
に使用

6,000円

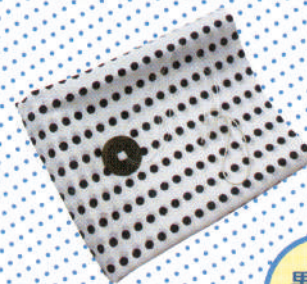


衣装セット

男踊り
に使用

上着(サイズ:M・L)、豆紋り・鼻当て、
ズボン(フリーサイズ)付き

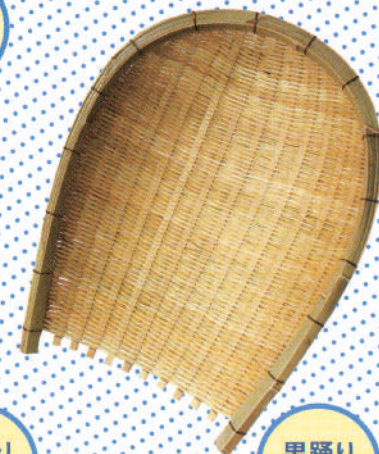
15,500円



豆紋り・鼻当て

男踊り
に使用

1,300円



ガル

男踊り
に使用

6,000円

安来節出演、安来節グッズの注文などお問い合わせはコチラ

安来節保存会

島根県安来市古川町534 安来節演芸館2F Tel.0854-28-9988 Fax.0854-28-9393
ホームページ <http://www.y-hozon.com/> admin@y-hozon.com

※令和元年6月現在の価格です。※写真と実際の商品とは異なる場合があります。

いらっしやいませ

安来

YASUGIBUSI TRIP



戦国時代に中国地方を支配した尼子氏の居城跡。主家への忠義を貫いた山中鹿介の記念碑や銅像、随所に残る石垣や石畳の古道が往時の面影を伝えます。日本名城100選にも選ばれました。

3

がつさんとだじょうあと
月山富田城跡



栈敷席をイメージした畳敷きのホールでは、生の安来節（唄と踊り・銭太鼓）を一日4回公演。その他、安来名物のどじょうを使った料理が味わえる食事処や安来のお土産・工芸品が揃う売店もあります。

2

やすぎぶしえんげいかん
安来節演芸館



全国的に有名な「どじょうすくい」。ひょうきんな表情と微妙な腰の動きが特徴です。自然と笑いがおこり、楽しい一時を過ごせること間違いなし。あなたも、仲間同士で立ち寄ってみてはいかがでしょう？きっと、すてきな思い出になります。

1

やすぎぶしや
安来節屋
どじょうすくい体験道場



含食塩石膏泉のため薬効が高く、特に神経疾患、婦人病などに良い温泉です。旅館は3軒あり、日本海の新鮮な海の幸や郷土料理など四季の名物料理が好評です。

7

さぎのゆおんせん
さぎの湯温泉

国民保養温泉指定地・県立自然公園



四季折々の表情が美しい5万坪の日本庭園と横山大観をはじめとする近代から現代の日本画、陶芸、童画などを堪能できます。鑑賞時間の目安は2時間以上。さぎの湯温泉隣接。開館時間・午前9時～午後5時30分（10月～3月は午後5時まで）。



6

あだちびじゅつかん
足立美術館



標高330mに位置するアウトドアレジャー施設。東に大山、北に中海、島根半島を眺望でき、周辺には、市内最大規模の茶畑も。コテージ、バーベキュー設備も備え、家族連れ、グループでの行楽にも最適のスポットです。

5

うえのだいみどりのむら
上の台緑の村



YASUGI

●安来市の観光に関するお問い合わせは

安来市観光協会

〒692-0011 島根県安来市安来町2093-3 Tel.0854-23-7667 Fax.0854-23-7654
E-mail: mail@yasugi-kankou.jp ホームページ <http://www.yasugi-kankou.com/>



安来市商工観光課

〒692-8686 島根県安来市安来町878番地2 Tel.0854-23-3110 Fax.0854-23-3061
E-mail: kankou@city.yasugi.shimane.jp

4 清水寺

県立自然公園



伝統的な美しさと静寂な自然美、四季を彩色する風光に秀でています。旅館は2軒あり、とくに精進料理は定評があります。清水羊羹も好評です。

8

和鋼博物館

わこうはくぶつかん



古くから、ハガネの街として発展してきた製鉄の技術、流通、鉄文化を学術的にハイビジョン映像などを駆使して多面的に紹介しています。平成28年に「出雲国たたら風土記〜鉄づくり千年が生んだ物語〜」日本遺産認定(安来市・雲南市・奥出雲町)



お問い合わせ



観光に関すること

安来市商工観光課

島根県安来市安来町878番地2

Tel.0854-23-3110 Fax.0854-23-3061

E-mail : kankou@city.yasugi.shimane.jp



安来節に関すること

安来節保存会

島根県安来市古川町534

Tel. 0854-28-9988 Fax. 0854-28-9393

E-mail : admin@y-hozon.com